

評・唯川 恵 (作家)

## 遺品整理士という仕事

木村榮治著

親の遺品を前にして、頭を抱えてしまう家族がどれほど多いか。

私自身も経験がある。両親が逝ってから、実家の押入れ、納戸、箆笥の引き出しを開いて何度もため息をついた。いったいどこから手を付ければいいのかわからない。

仕事が忙しくて手が回らない方もいるだろう。遠く離れ

て帰省が難しいケースもあるかもしれない。

そんな状況の中、家族の思いを汲み取って、遺品を整理してくれる誰かがいたらどんなに助かるか。そこで「遺品整理士」の登場になる。ビジネスは、需要があつてこそ成り立つのである。

遺品だけではない。今この時、親の家の片付けに頭を悩

ましている子供らも数多くいるはずだ。大概の場合、親と喧嘩になってしまう。対立するのは親が「もつたいない」と思う世代だからと思つていたが、実は健康上の理由の場合も多いという。読んで実に納得した。その対処法も書かれていて参考になる。

さあ、そつていよいよ自分の番である。このままでは両親の二の舞を演じてしまう。まずはどこから手を付けようか。(平凡社新書、760円)